

大駱駝艦・舞踏公演

「阿修羅」

ASURA



★2019年1月26日（土）15:00 開演★

☆ならまちセンター市民ホール☆

担当：新船洋子

大駱駝艦 / キャメルアーツ(株)

newship@dairakudakan.com

〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町 2-1-18-B1

TEL 0422-21-4982 FAX 0422-21-4983

「阿修羅」とは

奈良・興福寺の阿修羅像——穏やかではあるが憂いを帯びたあの表情。終わることのない戦争の神として修羅場を経て、最終的になぜあの表情に辿り着いたのか。「阿修羅」は、その旅路を巡る作品である。

1300年前に創作された阿修羅像が天災や戦火をくぐりぬけ、今も現代に生きる人々に懺悔の心と癒しを与えているのは、当時製作した人々はもちろん、受け継いできた人々の願いと祈りが阿修羅の身体に結晶体として込められているからである。

銚久奈緒美が「阿修羅」を発表した2015年、日本は戦後70年の節目を迎えたが、今も世界は争いに向かっている。1300年前から受け継がれる平和への願いと祈りを現代に現出させることが、銚久にとっての祈りであり、踊りである。本作品により銚久は第47回舞踊批評家協会新人賞を受賞、2017年にはパリ日本文化会館で上演し、絶賛された。

大駱駝艦で培った舞踏体を“阿修羅”に明け渡し、結晶体として今、故郷・奈良の舞台に現出させる。

2015年9月11日～19日大駱駝艦・スタジオ壺中天（こちゅうてん）にて初演。

2017年11月フランス・パリ日本文化会館にて再演。

公演概要

日時：2019年1月26日（日）14:30開場、15:00開演（全席自由）

会場：ならまちセンター市民ホール

料金：前売り・3,000円 当日・3,500円

チケット販売窓口：大駱駝艦：[TEL:0422-21-4984](tel:0422-21-4984) / <http://dairakudakan.com>

チケットぴあ：[TEL:0570-02-9999](tel:0570-02-9999)(Pコード:488-740) / <https://t.pia.jp>

イー＋：<http://eplus.jp>(PC&携帯)

振付・演出・美術：銚久奈緒美

出演：銚久奈緒美、藤本梓、梁鐘響、伊藤おらん、齋門由奈、谷口舞、川村真奈、坂詰健太、荒井啓汰

監修：麿 赤兒

音楽：松宮圭太

照明：森 規幸

音響：久保勇介

衣裳：富永美夏

舞台写真：熊谷直子

宣伝美術：松田篤史

文化庁委託事業「平成30年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

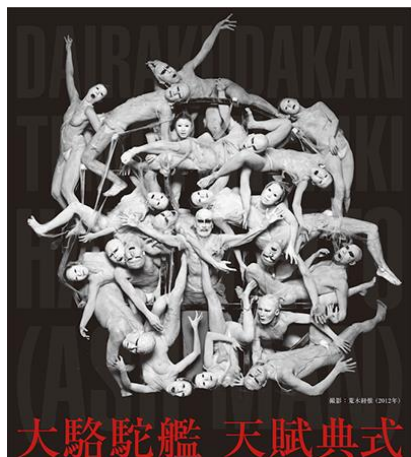
名義共催：一般財団法人奈良市総合財団奈良市ならまちセンター

主催：文化庁・キャメルアーツ株式会社 制作：キャメルアーツ株式会社

鉾久奈緒美 (むくなおみ)

奈良県出身。幼少よりクラシックバレエを始める。お茶の水女子大学・舞踊教育学コース卒業。在学中、大駱駝艦・白馬村夏季合宿に参加を機に2005年、大駱駝艦入艦。以降大駱駝艦全作品に出演。2007年大駱駝艦夏季合宿のドキュメンタリー映画「裸の夏」のポスター、チラシに金粉を塗った全身写真が使用され話題を呼ぶ。大駱駝艦スタジオ「壺中天」にて継続して行っている壺中天公演へも出演し、自らが振付・演出・美術・出演を担った作品は、2008年『ヤマウマレビト』、2011年『日月花』、2010年『白鳥湖』2015年『阿修羅』がある。その他、宮本亜門演出『耳なし芳一』、野村萬斎演出『神なき国の騎士』、杉原邦生演出『やわらかなかぐら』、小野寺修二演出『ドンキホーテ』、映画『あゝ、荒野』等に出演し、ジャンルを問わず、各方面から注目されている舞踏家である。

第47回舞踊批評家協会新人賞受賞。



大駱駝艦 (だいらくだかん)

1972年創設。麿赤兒(まろあかじ)主宰。その様式を天賦典式(てんぷてんしき:この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とする)と名付け常に忘れ去られた「身振り・手振り」を採集、構築し多数の作品を上演。一般の人を対象にしたワークショップ「無尽塾・むじんじゅく」、夏は長野県白馬村において合宿を実施している。大駱駝艦 HP <http://dairakudakan.com>

麿 赤兒 (まろあかじ) 舞踏家・俳優

66年より舞踏家土方巽に師事。その間、唐十郎との出会いにより状況劇場に参加。唐が唱える「特権的肉体論」を具現する役者として演劇界に大きな衝撃を与える。

72年、舞踏集団「大駱駝艦」を旗揚げ。天賦典式と名付けたその様式は国内外で大きな話題となり、「BUTOH」が世界に浸透。舞踏家・俳優・振付家・演出家としてジャンルを越境し、舞台芸術の分野で先駆的な地位を確立している。

1974年、87年、96年、99年、2007年、2012年舞踊批評家協会賞受賞。

2006年文化庁長官表彰。2012年ダンスフォーラム賞・大賞受賞。

2016年東京新聞制定・第64回舞踊芸術賞受賞。

2018年種田山頭火賞受賞。